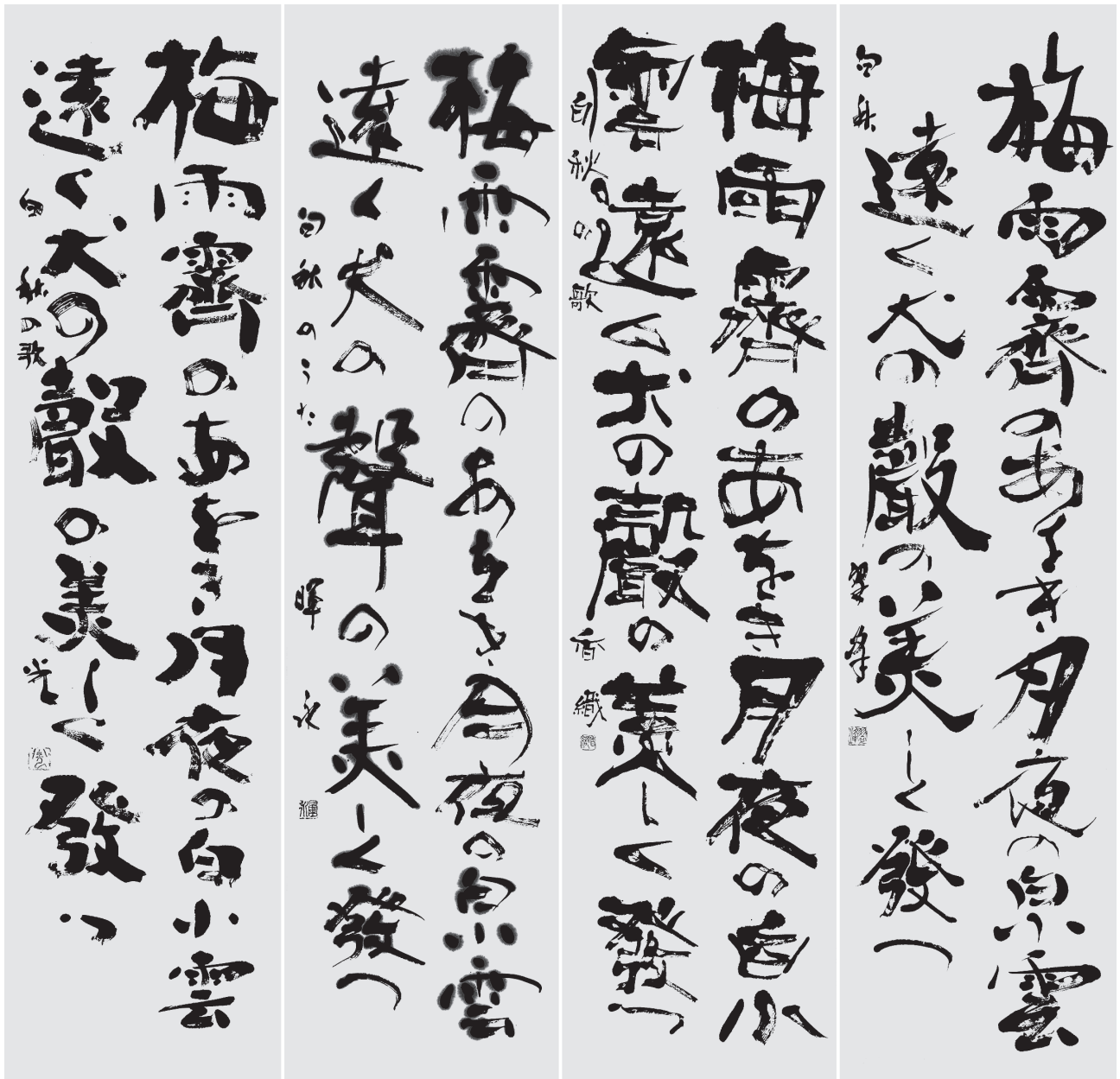


藤田壽樹先生選評



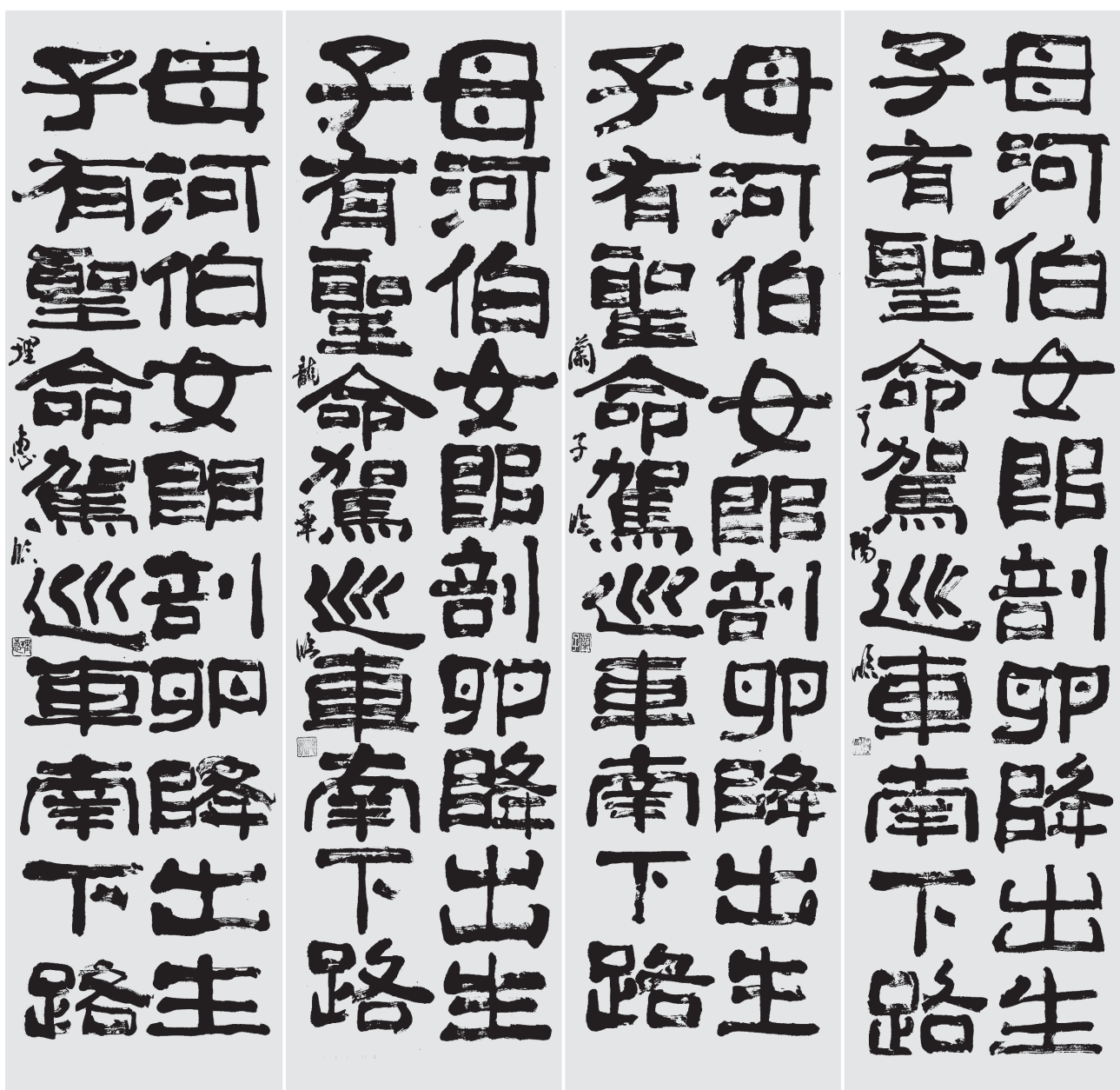
喜多翠峰 推選
 豪快な腕の動きから生まれた一文字一文字が表情豊かに躍動して見事です。牙え渡った線からは美しく響いた白が生じ、これも含め魅力的な作品となりました。

鯨井香織 推選
 横画の水平感を主体とした安定感のある結体。ともすると単調になるところを、文字の大小や太細に変化をつけて、巧みに見せている。特に下半部が素晴らしい。

桑子暉 永 推選
 宿墨を用いてしっとりとした潤筆、滲みを出し成功している。穏やかで暢びやかな味わいや趣は悠揚として見事。また落ち着きのある雰囲気醸して美しい。

一ノ宮 光 推選
 筆の鋒先を刷毛のようにして書いているのでしょうか。独特で特徴鮮やかな厚みのある線が印象的。漢字と仮名、全体が良く調和した熱くて雄渾な作品となった。

江幡太穠先生選評



坂本千陽 推選
線が明るく大きな動きで文字の中に空間を多く取り入れていたので白が美しく活き活きした作品です。墨量や太さもこの位が原帖に近いと思います。お見事です。

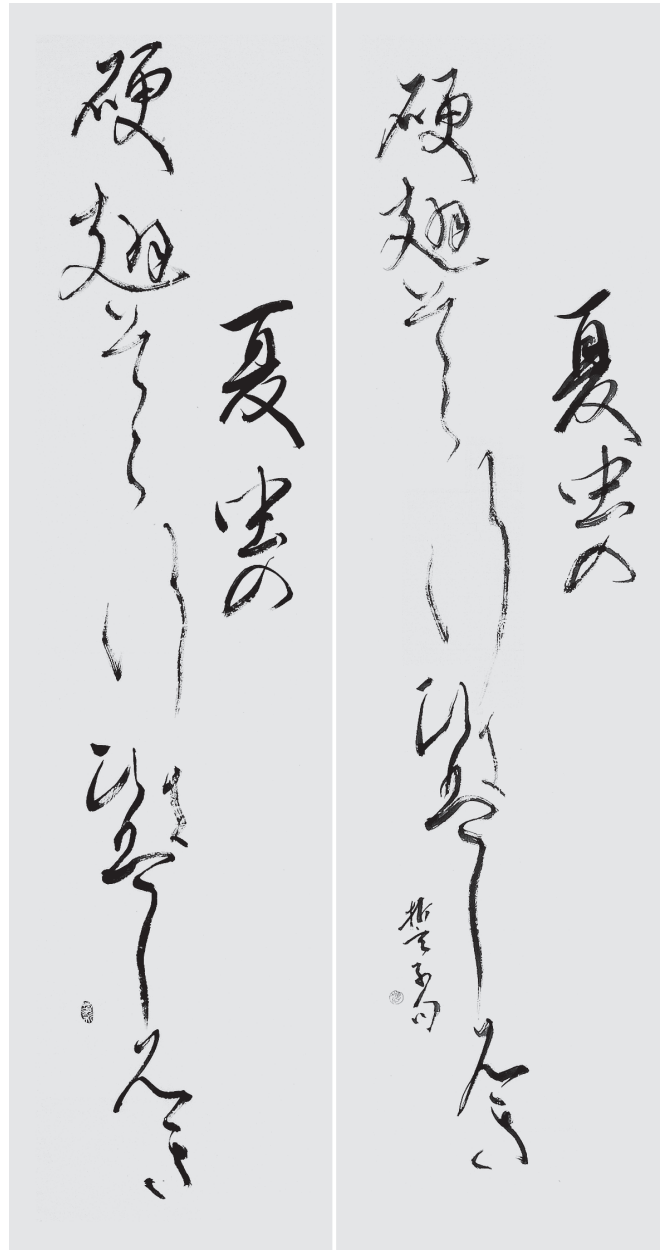
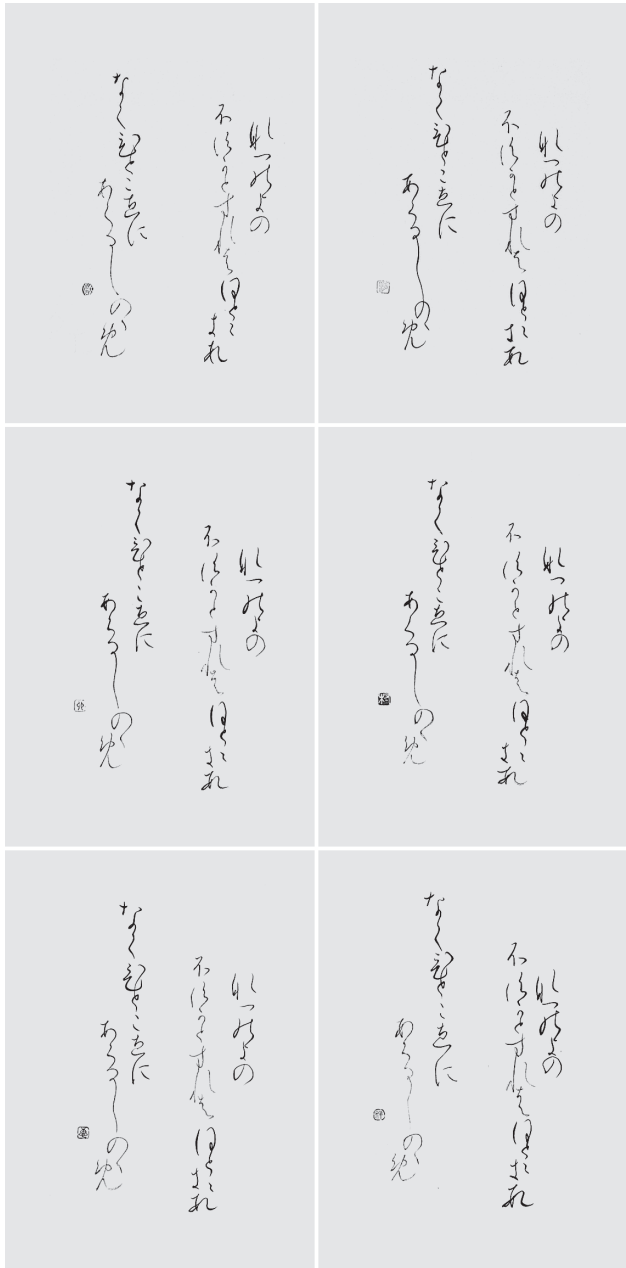
寺島蘭子 推選
横画の起筆(蔵鋒)が多少観念的にも見えませんが、落筆高く、潤濁も良くやはり明るく白の美しい作品になりました。渴筆過ぎる線は軽く補筆しても良かったか。

岡田龍華 推選
落ち着いた筆遣いで、潤濁も素晴らしく大きな動きで生命感溢れる作品となりました。右払い、左払いの角度、収筆の筆圧にもう工夫あってもよかったですか。

池崎理恵子 推選
多種多様な線に目を眩るものがあります。実力が窺えます。一つ気になるのは蔵鋒を使った横画が少し細い。筆を倒しすぎている様に見えます。太細の変化を。

佐賀道子先生選評

白幡陽子先生選評



服部紀子 八段
細線ながら筆の開閉も効いて、連綿も古筆の観とりよく軽快なリズムです。更に筆圧・墨量の変化を心掛けると作品に深みが増すでしょう。

長谷川彩光 師範
大らかな筆勢で筆の弾力を生かした流麗なリズムが温かく全体を貫いています。墨色の推移も美しく「元永本」の気品を呈しています。

霜鳥卯水 準七
特に後半二行、筆管も立ち生き生きと線に張りがあり、墨色・リズム快調です。真摯な学びの姿の窺える作。更なる練度を期待します。

高橋美村 師範
穂先の回転・筆圧の変化見事です。紙にくい込む切れ味するどく、立体感のある凛とした作に仕上がりました。学びの深さが窺えます。

伊藤恵子 準三
明るく清澄感ある素直な筆勢に目を惹かれました。隣り合う行との墨色の変化も美しい。中心にもう少し余白をとると全体観更に佳くなります。

湊谷洋子 準師
ダイナミックに浮沈の効いたリズムが颯爽として心地よい。明るく張りのある線が魅力的。書き出しがやや大きくなり、間が惜しいです。

金子芳彩 推選
濃墨の引き締まった筆線は生き生きと躍動し、遅速、細太と巧みな筆遣いで爽快感のある作。更に筆鋒の開閉で渴筆部分を加えれば、より輝く作に。

泊出淳子 推選
深みある冴えた線条、こめられた青墨色の移ろいは、優しく明るく涼やか。詩情が馥郁とひろがり、自然な筆致から生じる豊かな表情に培われた深さを感じる。

葛西玄涛先生選評



高志知子 師範
安定した筆の動きと、余白の白さを生かして、高品格の作品となった。王羲之の行書を半紙で学んでいく指針となり、臨書の大切さを訴える。

武田燈泉 五段
紙面よりも広い空間で腕を動かして筆を操っています。そのため、線がとでも伸びやかになり、文字は実寸よりも大きく広がって見えてきます。

井上和香 師範
それぞれの始筆の角度と鋭さが統一されていて、ほとんどの線が理想的な強い線となった。強い線でも重くならず爽やかな線で纏めあげた。

藤川早苗 準七
気合の入った力強さに溢れて安定しています。始筆の角度、転折の筆運び、どちらも明快で、墨が紙にしっかりと浸透しています。

鈴木暉月 師範
柔らかな腕の動きと、滑らかな速度の変化で、潤渇が鮮明に異なっている。絵画にも見られる遠近感、立体感を自然に作りだして見応えがある。

上野伸子 準五
線の重量感を強く感じます。転折と終筆での筆圧の強さが、この感を強調させる効果となった。渴筆の種類が多いので、表現の幅を広く見せた。

丸山紅霞 師範
優しく円やかな空気をたっぷりと感じます。安定した腕の動きが筆先に伝わり、直筆が多くなっていることが、この作の魅力を増強にした。

鈴木淳子 準六
筆の弾力を生かした少し円い始筆であつても送筆の速度を早くし、空気を切り裂くような腕の動きで、張猛龍の鋭い線質を見事に表現している。

笹川游月 準六
始筆で、筆の弾力を生かす間を作ってから動いている。筆の反発力が最大でも派手な線になり過ぎていない。完成度が高く、魅力に溢れている。

佐藤真紀子 三段
流暢で軽快な動きが多くて、爽やかな空気が心地よい。各々の文字をよく観察して、丁寧に表現しているが、個性を強く打ち出しているのが良い。

田中晴峰 八段
筆の毛を少しよじるようにして作り出した洪めの線が、他の清澄な線と上手く調和しています。作品を引き締める緊張感を強く、成功している。

佐藤花奏 準二
豪快で迫力のある作品に仕上がった。紙面から出ていきそうな大きい動きが見えてくるのが最大の魅力です。特に長い線に強く魅かれてしまう。